

(21) 以下の通り訂正いたします。

#### P433 発表者の変更

誤

185) 褥瘡創面におけるフィブロネクチン分子の解析による褥瘡治癒過程のアセスメント指標の検討

○松本尚子<sup>1</sup>, 米田雅彦<sup>2</sup>

<sup>1</sup>豊橋創造大学保健医療学部看護学科,

<sup>2</sup>愛知県立大学看護学部

#### 【目的】

褥瘡は多様性であり、褥瘡の状態を正確にアセスメントしその状態に合った看護介入を実施することは重要である。一方、褥瘡は慢性の皮膚潰瘍で、基本的な治癒過程を経ずに治癒遅延を起こしていることが多い。慢性皮膚潰瘍の特徴は、タンパク質の分解促進や細胞外マトリックス（以下ECM）の構造変化と考えられている。筆者らはECMの1つであるフィブロネクチン（以下FN）に着目し、褥瘡とFNの分解、褥瘡の治癒過程との関係について明らかにしてきた。今回は、これまでの結果を基に、褥瘡の治癒過程と関係性が強いと推定されたFNの構造部位（ドメイン）を明らかにし、そのドメインの抗体を作成して実験に用い、褥瘡の状態をアセスメントする指標として活用可能が基礎的知見を得ることを目的とした。

#### 【研究方法】

対象 褥瘡と診断され同意の得られた対象者に使用されたガーゼに付着した分泌物。分析方法 採取したガーゼを9領域に分け、各領域に付着した分泌物からタンパク質を抽出し試料とした。抗体作成 FNのペプチド構造より、褥瘡の治癒過程と関係が強い箇所を推定、抗原が発現可能か確認後、抗原をもとに抗体作成を業社へ依頼した。推定したFNの構造部位（ドメイン）を業社へ作成依頼した。作成した抗体は2種（抗体FNA, 抗体FNB）である。ウェスタンブロット法 試料を作成した抗体FNA, Bを用いて抗原抗体反応によりFN存在の確認を行った。褥瘡の肉芽組織の状態、治癒過程時期の所見は皮膚科専門医の助言を受けた。倫理的配慮は、対象者に承諾を得た上でガーゼ、創部の画像をコード化し、一切対象者と結びつくことはないこと等を明確にし、協力の得られた医療施設の倫理審査委員の承認を得た。

#### 【結果】

ウェスタンブロット法の結果から、作成した抗体FNA, 抗体FNBは検出可能であることが明らかとなった。さらに、抗体FNAは、肉芽組織が良好な時期に高分子の断片が検出されるが、抗体FNBは検出されなかった。褥瘡の治癒過程時期は構築期であった。

#### 【考察】

FNのペプチド構造から治癒に関係するドメインを推定して作成した抗体FNA, 抗体FNBで肉芽の状態を判断可能であることが明らかとなった。このことは、FNの分解物の量的な増減が褥創組織における創傷治癒過程に関与し、構造的不備や他分子との結合阻害によってECMの構築状態を変化させていることが考えられる。さらには、抗体FNAが検出された時期が褥瘡の肉芽組織が良好な時期であったことから、褥瘡の治癒過程を判断する材料の1つとしての可能性が示唆される。今後、抗体FNA, Bの量的な増減や分解の程度について傾向を解明し、褥瘡の状態と治癒過程を含めたアセスメントの指標につながると考える。

正

185) 褥瘡創面におけるフィブロネクチン分子の解析による褥瘡治癒過程のアセスメント指標の検討

松本尚子<sup>1</sup>, ○米田雅彦<sup>2</sup>

<sup>1</sup>豊橋創造大学保健医療学部看護学科,

<sup>2</sup>愛知県立大学看護学部

#### 【目的】

褥瘡は多様性であり、褥瘡の状態を正確にアセスメントしその状態に合った看護介入を実施することは重要である。一方、褥瘡は慢性の皮膚潰瘍で、基本的な治癒過程を経ずに治癒遅延を起こしていることが多い。慢性皮膚潰瘍の特徴は、タンパク質の分解促進や細胞外マトリックス（以下ECM）の構造変化と考えられている。筆者らはECMの1つであるフィブロネクチン（以下FN）に着目し、褥瘡とFNの分解、褥瘡の治癒過程との関係について明らかにしてきた。今回は、これまでの結果を基に、褥瘡の治癒過程と関係性が強いと推定されたFNの構造部位（ドメイン）を明らかにし、そのドメインの抗体を作成して実験に用い、褥瘡の状態をアセスメントする指標として活用可能が基礎的知見を得ることを目的とした。

#### 【研究方法】

対象 褥瘡と診断され同意の得られた対象者に使用されたガーゼに付着した分泌物。分析方法 採取したガーゼを9領域に分け、各領域に付着した分泌物からタンパク質を抽出し試料とした。抗体作成 FNのペプチド構造より、褥瘡の治癒過程と関係が強い箇所を推定、抗原が発現可能か確認後、抗原をもとに抗体作成を業社へ依頼した。推定したFNの構造部位（ドメイン）を業社へ作成依頼した。作成した抗体は2種（抗体FNA, 抗体FNB）である。ウェスタンブロット法 試料を作成した抗体FNA, Bを用いて抗原抗体反応によりFN存在の確認を行った。褥瘡の肉芽組織の状態、治癒過程時期の所見は皮膚科専門医の助言を受けた。倫理的配慮は、対象者に承諾を得た上でガーゼ、創部の画像をコード化し、一切対象者と結びつくことはないこと等を明確にし、協力の得られた医療施設の倫理審査委員の承認を得た。

#### 【結果】

ウェスタンブロット法の結果から、作成した抗体FNA, 抗体FNBは検出可能であることが明らかとなった。さらに、抗体FNAは、肉芽組織が良好な時期に高分子の断片が検出されるが、抗体FNBは検出されなかった。褥瘡の治癒過程時期は構築期であった。

#### 【考察】

FNのペプチド構造から治癒に関係するドメインを推定して作成した抗体FNA, 抗体FNBで肉芽の状態を判断可能であることが明らかとなった。このことは、FNの分解物の量的な増減が褥創組織における創傷治癒過程に関与し、構造的な不備や他分子との結合阻害によってECMの構築状態を変化させていることが考えられる。さらには、抗体FNAが検出された時期が褥瘡の肉芽組織が良好な時期であったことから、褥瘡の治癒過程を判断する材料の1つとしての可能性が示唆される。今後、抗体FNA, Bの量的な増減や分解の程度について傾向を解明し、褥瘡の状態と治癒過程を含めたアセスメントの指標につながると考える。